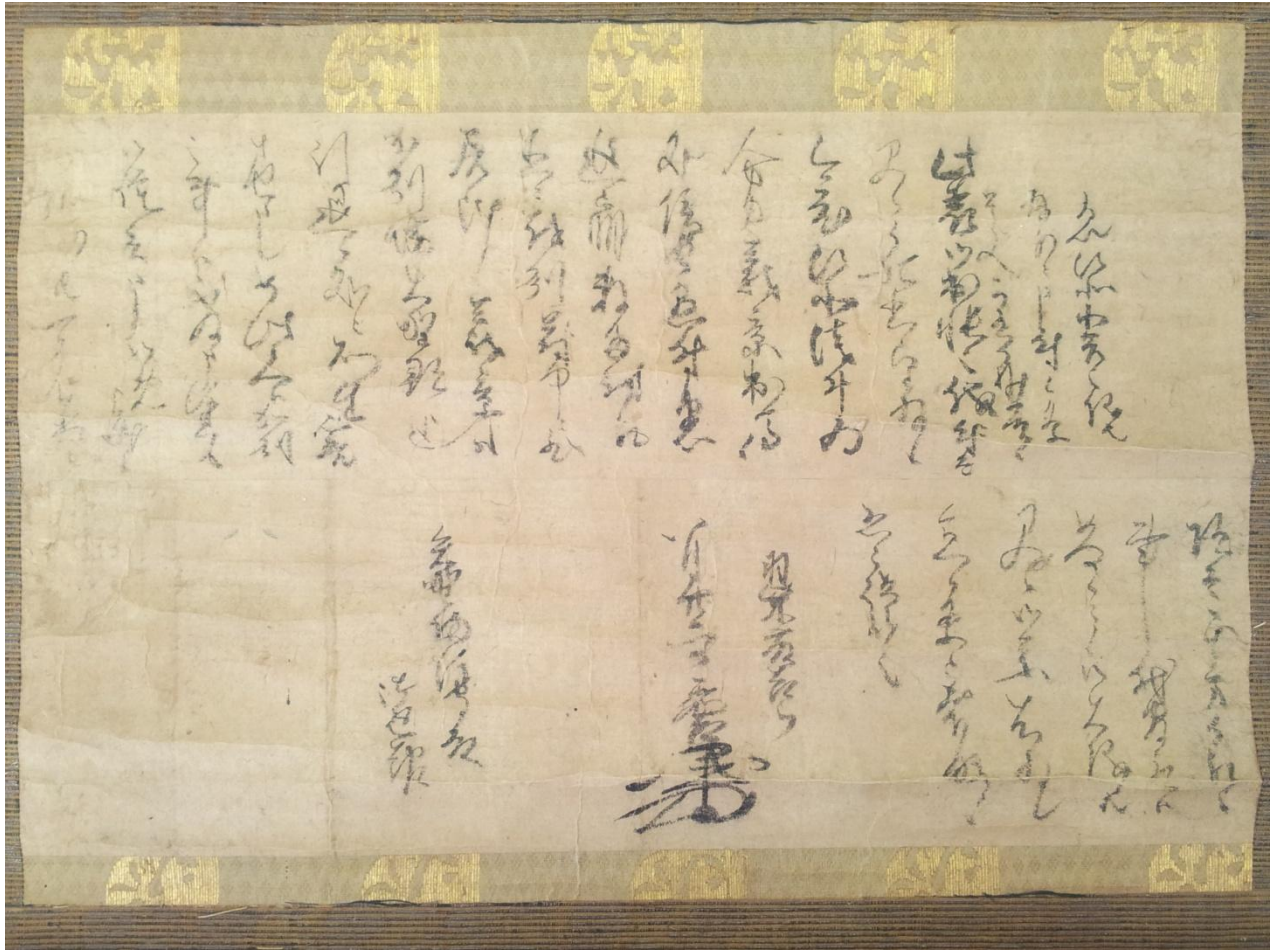


羽柴秀吉書状について

形状 折紙1通の下部を逆に貼りつき軸装 (縦26 cm×横42.8 cm)



8月22日羽柴秀吉書状本紙

〔読み下し文〕

この表御出張の儀につきて早々御状、本望に存じ候。今度江北浅井合力のため義景出馬候処、信長懸け付け、悉く追い崩し、数多(あまた)討ち取り、直ちに越州府中に至って陣を居え候。義景も加州境大野郡まで引退候処に、則生害させ申し候。かくのごとく候えば、加州の事は申すに及ばず、口れも御わびこと申し、御免なされ候。[]とも御心安かるべく候。したがってそなた御礼の事、代官にては如何に候。御大儀候とも早々御参りもつとも存じ候。急ぎ候条、省略せしめ候。恐々謹言。

なお以て江北小谷の儀は、存分に申し付け候条、是また御披露あるべく候。

八月二十二日 羽柴藤吉郎秀吉

矢野備後守殿 御返報

〔現代語訳〕

(天正元年) 8月22日 羽柴秀吉書状現代語訳

この方面に(織田信長が)出陣したことについての早速の書状は願ってもないことだ。今度江北(近江北郡)の浅井氏合力のため朝倉義景が出馬したところ、織田信長が駆けつけ、追撃してこれを破り、多数討ち取り、すぐに越前府中に進攻して(信長は)陣をすえた。朝倉義景も加賀堺の大野郡まで退却したところを殺させた。こうしたことの結果、加賀は当然ながら、誰もが懇望して(信長方に)帰属することを許された。[判読不明](あなた方丹後勢の処遇についても)安心されたい。したがってあなたが信長に(服属することを明らかにするために)御礼に参上することは、代りの者ではまずいと思われる。大儀ではあっても早くあなた自身が御礼に参上することが必要だ。事態が急なので詳しいことは省略する。

(追而書)

なお、小谷城の攻略は思いどおりに命じてある。そのことを(丹後守護一色氏に)伝えられたい。

〔解説〕

- ・織田信長の部将 羽柴秀吉が、丹後の武士矢野氏に宛てて送った返事
- ・朝倉義景が大野郡に引退し殺害されたことを報じ、矢野氏自身が信長のもとに参上して御礼を申し上げることを告げ、かつ小谷城攻略の意思を伝えたものであり、戦況を秀吉自身が語った貴重な資料である。
- ・天正元年8月の朝倉義景の滅亡については、『越州軍記』『朝倉始末記』『信長公記』などの軍記により、その大筋が知られているが、攻略に当たった当事者が、自らの行動と朝倉氏の行動を記して書き残した古文書として極めて意義深い資料

速報展「朝倉義景の最期を語る書状の発見」について

1 会 期 平成27年5月2日（土）～5月31日（日）【30日間】

2 場 所 一乗谷朝倉氏遺跡資料館 展示室

3 趣 旨

- ・このたび発見した「羽柴秀吉書状」を中心に、天正元年（1573）8月の織田信長の越前進攻から朝倉義景の退却と自害・朝倉氏滅亡までにスポットを当てて紹介する速報展を開催
- ・公開する書状は、朝倉氏の滅亡を最も早く知らせたもので、これまで一般に知られていなかった貴重な資料
（秀吉の発給文書約7千点のうち、越前の戦況と朝倉義景の大野郡への退去と自害を伝えたものとしては1点のみ）
- ・天正元年8月22日、越前朝倉氏を攻撃していた秀吉が、陣中から丹後の矢野氏に対して、朝倉氏の滅亡とその後の対応（小谷城攻め）を知らせる内容で、織田信長の越前出兵の経緯、越前府中への信長の出陣、朝倉義景の自害、加賀の臣従などの戦況、さらには、近江小谷城落城寸前の状況を秀吉がリアルタイムで書き残した貴重な資料

4 主な展示資料

- ・羽柴秀吉書状 1通（初公開）
- ・織田信長覚書 1通（原本西本願寺蔵 ※パネル）
- ・織田信重書状 2通（原本真田宝物館蔵 ※パネル）

5 関連行事 特別講演会 テーマ「戦国大名朝倉氏の滅亡」
平成27年5月3日（日）14:00～15:30
講師 佐藤 圭（当館文献調査専門員）